

次長

承認	議長	副議長	事務局長	総括参事	合議	担当
					 	 

様式第1号

令和6年9月26日

真庭市議会

議長 小田 康文 様

真庭市議会議員 氏平 篤正



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先

兵庫県姫路市神屋町 1 4 3 - 2

アクリエひめじ

(姫路市文化コンベンションセンター)

3 内 容

第86回全国都市問題会議

テーマ：健康づくりとまちづくり

～市民の一生に寄り添う都市政策～

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要

不要



(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

行程表（令和 6 年 1 0 月 1 7 日、 1 8 日）

日付	時刻	分類	内容	備考
10/17	7 : 00	移動 (自動車)	久世本庁⇒姫路市	米子道 中国道 播但連絡道
	9 : 30	研修会	第 8 6 回全国都市問題会議	アクリエひめじ 兵庫県姫路市神屋町 1 4 3 - 2 TEL : 079-263-8082
	18 : 00	宿泊	姫路駅前ユニバーサルホテル南口	兵庫県姫路市南畝町 1 - 2 6 TEL : 0792-22-4000
10/18	9 : 30	研修会	第 8 6 回全国都市問題会議	アクリエひめじ 兵庫県姫路市神屋町 1 4 3 - 2 TEL : 079-263-8082
		移動 (自動車)	姫路市⇒久世本庁舎	播但連絡道 中国道 米子道

参加議員名簿

日にち：令和6年10月17日、18日

No.	名 前	会 派 名	備考
1	うじひら 氏平 とくまさ 篤正	りよく 緑 しん 真 かい 会	代表者
2	にしだ 西田 ふみこ 文子	りよく 緑 しん 真 かい 会	
3	もりわき 森脇 まさかず 正和	りよく 緑 しん 真 かい 会	

報 告 書

令和 6 年 10 月 23 日

報告者 真庭市議会議員 氏名 氏平 篤正

下記のとおり政務活動費を利用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時

自 令和 6 年 10 月 17 日 (午前・午後) 9 時 30 分
至 令和 6 年 10 月 18 日 (午前・午後) 12 時 00 分

2 場 所

姫路市文化コンベンションセンター アクリエひめじ

アクリエとは、「アーク：かけはし」「クリエイト：創造」から 4 文字を取った造語。JR 姫路駅から専用通路で徒歩 10 分、大中小のホールにスタジオもあり、1 階広場は参加者 1,700 人の昼食席と特産品売り場がある広さがあった。音楽の町ひめじとして売り出している。

3 用 件

第 86 回全国都市問題会議

健康づくりとまちづくり

～市民の一生に寄り添う都市政策～

◆基調講演 生命を捉えなおす
ー動的平衡の視点からー

生物学者／青山学院大学教授 福岡伸一（別途経歴）

蝶ネクタイにシルクハットの黒衣装… チャップリンみたいと隣の人が言ったが、変わった人の感じがした。友達もいない閉じこもっていた少年に親が顕微鏡を与えた。蝶々の羽を見る事から始まり、生命哲学へ道を進んだ自分の人生を語った。



ネット社会は調べることをしない、豊かな学びを奪っている。残念だが、人は森を見ず木を見て満足している。マウスの話、GP2 遺伝子ノックアウトマウスの話は鋭かった。物は壊すこと、壊れることを考えて作る。だから公共物も修繕工事が必要となる。最初からバラすことを考えている。生命はゆるゆるに作っており、強くしよう、強くなろうとする。町づくりも頑丈だけではない、「エントロピー増大の法則」にあらがう。生命と死、生命の有限性、「死があるから大切にする命」行本壬氏の碑があるが、死は最大の〇〇と話した。

大阪・関西万博に福岡伸一パビリオンができると。命と地球現場をテーマにしていると最後におっしゃった。もっと真剣に取り組むべきだった、チャップリンのような人はすごい先生だった。

◆主報告 市民の「LIFE」(命・くらし・一生)を守り支える姫路の健康づくりとまちづくり

兵庫県姫路市長 清元秀泰 (別添経歴)

健康づくりは町づくりの基本である。MLI、病気になる前にその予兆を早く見つける事の大切さ。健常、100 歳体操、姫路健康ポイント、声を出して喋る、カラオケで歌うと誤嚥性肺炎にならない、心の病は相談から、だから市役所に相談室を作ったと。市長は医者だった。ダジャレを連発するお医者さんだった。

1 日 1 万歩を楽しく歩く、そのため景観づくりにも力を入れた。しかし兵庫県知事は 10m 歩かされたら怒った(爆笑)。 姫路城をライトアップ、直線の大手町通りをイルミネーションして、歩行者天国にする。手を繋いでデートする、子供が生まれるとか、11 月 22 日のいい夫婦の日に点灯する「あなた、結婚記念日は姫路にしましょう」と言って 2 人で来てください(笑)。 市長室を訪ねて来て下さったら山田錦の酒をお酌しますから(笑)。

400 年の姫路城の事も忘れず話した。生命学の福岡伸一先生がおっしゃった、倒れる前に直さなければならない、保存にお金がかかるが命を守らなければならない、素晴らしい講演が聴けた。備中高松城が落城して姫路に来た。建てたのは豊臣秀吉でも池田照正でもなく、腕のいい宮大工だった。(ふざけても笑いを取る)。 姫路城は国宝だからエレベーターが無い、大阪城にはある。姫路城は文化庁の所管で姫路市が管理運営している。

マイナンバーカードを持参していれば、救急車が来ても、すぐ対応できる。倒れる人の 8 人に 1 人は脳卒中とか心筋梗塞でなく低血糖だ、デジタル情報を持っていると飴玉を口に入れるだけで助かる。母子手帳も子供のワクチンも電子手帳、子育て関係も全て、すごい事をしている、すごく真面目な事を話した後、高田賢三 (KENZO) の遺作になった緞帳を見て帰って下さい！ 夜は駅前の横丁に行って！私も横丁のスナックに行くと締めくくった。

◆一般報告

生き物から学ぶ健康な町づくり

筑波大学システム情報系教授 谷口 守（別添経歴）

都市そのものを健康にするまちづくり

～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～

千葉県流山市長 井崎義治（別添経歴）

IT/AI の健康分野への適応例

～姫路市の健診データ解析と歌唱による誤嚥予防～

兵庫県立大学副学長 畑 豊（別添経歴）

◆パネルディスカッション

健康づくりによるまちづくり パネルディスカッションにあたって

コーディネーター 中央大学法学部教授 宮本太郎（別添経歴）

心理社会面から見た、子どもの健康

パネリスト 高岡病院児童精神科医 三木崇弘（別添経歴）

食を切り口とした1人1人の望む暮らしを支援する栄養パトロール事業

パネリスト NPO 法人日本栄養パトネット理事長 奥村圭子（別添経歴）

未来型「ゆい」でつむぐ健康高原都市・茅野の構築

パネリスト 長野県茅野市長 今居 敦（別添経歴）

「未病予防対策先進都市」をめざした「官民連携」「市民共創」の町づくり

パネリスト大阪府泉大津市長 南出賢一（別添経歴）

気になった事を記す

「健康まちづくり」が近年大きく着目されている。都市自体が生活習慣病、メタボになってはならない。すべての政策に健康視点を基軸にした政策立案している。子育て日本一、東の千葉県流山市長が次々保育園をつくり、預りステーションをつくり、要保護児童の受け皿をつくり、緑をつくり… 職員が不動産屋のように街を走り回り働いたと、まったく自慢話をしない。自画自賛市長もいるが聴いていて爽やかだった。

都市づくり健康づくりに AI を活用した町としない町、10 年先を想像してみ

てください。早く AI に取り組みましょう！ 元気人口を増やす事こそが今日の焦点である。最初の 10 分程×5 人が個人の発表で、あとは筋書き無しの台本で展開させた、立派であった。例えば、管理栄養士が栄養パトロールを町ぐるみで展開して、誰も取り残さない食の支援、市民を孤立させない。に対し、栄養パトロールは悪い事をして警察に捕まるみたいだ、ネーミングを皆でもっと考えた方が…とか。前週の盛岡全国議長会の台本通りディスカッションとは違い、おもしろかった。また、パネラーも報告者もレベルが高かった。

人口減少、超高齢化の進展、若者に選ばれるまち、国家戦略特区への挑戦とすごい話が展開される。茅野市長も医者だった。医者は 1 日に 30 人程しか診察できない。市の健康づくりは万単位、規模が違う。

客席の女性からの質問で泉大津市長へ食のこだわりは何ですか？ それに対し「自分はボクシング選手だった、減量に苦労したので、自分が料理も作るし栄養管理もする」そして云々！ 会場から拍手がおこった。

申し訳ないが、しゃべりに年齢の差が出る。年寄りにはキレがない。若い人は素晴らしい、私もそうだが年を取ると活舌が悪くなる。石破首相も重々しくしゃべるが途中から何を言っているのか分からなくなる自分がいる。舞台大画面の下に AI が同時に訳した活字が出る。これは研究してください。議場に大画面を設置する時に AI を！ エスパス・ポンテホールと共同使用すると高額でも文句は出ないと思う。姫路市長が人口 52 万人と言っていたのに、人口 52 万円と表示された。議事録センターの費用も含めて研究する価値有ります。今、健康でない人は手を挙げて！と言ったので私は手を挙げたら 10 人程だった。あなたの周りに健康でない人がいる人？ すると大勢の人の手が上がった。みんな健康で元気でいたいのだ。そこに話を持っていき話を展開させる、素晴らしい。

姫路市長が言った KENZO さんの事、タペストリーに写る姫路市観光大使のん（朝ドラ女優）、アクリエは造語。6～7 人のスタッフ（市職員）に聞いたが答えられず、2 度総合インフォメーションに行った。全国大会をするのなら受付スタッフは最低限の学習会をしろ！ と真庭市役所に向かって言っておきたい。

丘みどり、ASKA、山下達郎、純烈など人気アーティストのチラシがロビーにある。もちろんクラシックもある。気になったので聞いた。文化財団ではなく民間の会社が競争で指定管理を取った。客が入ればやっていけますよ、市民に喜ばれるのは嬉しい、とインフォメーション嬢。素晴らしい。



1階の中後3席、1,700人参加。音楽のまち、越後のホール。大中小あ。



東の荒山、西の明石。子育と日本一の荒山市長の顔と撮りたく前に来た。



2日目のパネリストセッション。市役所に集う人々の中居るから。



AIで文字おこし。議場の大画面を設置する時は考えるべき。



姫路市出身のデザイナー、高田賢三(KENZO)さん作の、絨巾着(じんちやう)



昼食会場は兵庫県内のゆるキャラが顔出し、姫路式は小さい火だた。145か？

第1日（10月17日）講師略歴

基調講演



福岡伸一

(ふくおか しんいち)

生物学者／青山学院大学教授

1959年東京生まれ。京都大学卒業。米国ハーバード大学医学部博士研究員、京都大学助教授などを経て青山学院大学教授・米国ロックフェラー大学客員教授。大阪・関西万博（EXPO 2025）テーマ事業「いのちを知る」プロデューサー。サントリー学芸賞を受賞し、89万部を超えるベストセラーとなった『生物と無生物のあいだ』（講談社現代新書）、『動的平衡』（木楽舎）など、“生命とは何か”を動的平衡論から問い直した著作を数多く発表。

主報告



清元秀泰

(きよもと ひでやす)

兵庫県姫路市長

1964年兵庫県姫路市生まれ。国立香川医科大学卒業。医師免許・医学博士取得後、米テキサス大学学術研究員として留学。帰国後、香川大学医学部附属病院講師を経て、2010年10月東北大学医学部に異動、2012年2月より東北大学教授。被災地復興に専心し、文部科学大臣賞（科学技術賞理解増進部門）を受賞。2016年4月、日本医療研究開発機構調査役・プログラムオフィサーを経て、2019年4月、姫路市長に就任。現在2期目。市民の「命」、「くらし」、「一生」を守り、支えるとともに、地域の「活力」を生み出す市政を進めている。

一般報告



谷口 守

(たにぐち まもる)

筑波大学システム情報系教授

1961年神戸市生まれ。工学博士。京都大学大学院工学研究科単位取得退学。京都大学工学部助手、カリフォルニア大学客員研究員、ノルウェー王立都市地域研究所文部省在外研究員、岡山大学環境理工学部助教授・教授などを経て2009年より現職。国際住宅・都市計画連合(IFHP)日本代表理事、社会資本整備審議会都市計画・歴史的風土分科会会長、交通計画協会代表理事などを歴任。著書に『入門都市計画』『世界のコンパクトシティ』『生き物から学ぶまちづくり』ほか。文部科学大臣表彰（科学技術賞）、都市計画学会石川賞受賞。



井崎義治

(いざき よしはる)

千葉県流山市長

1954年東京都生まれ。立正大学卒業後、米サンフランシスコ州立大学大学院修士課程（地理学専攻）を修了。1981年より米国内でコンサルタント会社に就職し、地域計画、環境アセスメントなどに携わる。1989年に帰国後、流山市の将来性に着目し移住先に選択したが、財政状況の悪化や少子高齢化が進行する状況を危惧し、市長への立候補を決意。2003年に市長就任後、SWOT分析を行い、マーケティングに基づく経営戦略を推進。2021年まで6年連続全国792市町村人口増加率1位を記録。2016年に健康都市連合日本支部長を務める。現在、流山市長6期目、全国市長会副会長、千葉県市長会長。



畑 豊

(はた 豊)

兵庫県立大学副学長

1961年兵庫県赤上郡（現丹波市）生まれ。1989年姫路工業大学大学院博士課程修了（工学博士）。同年姫路工業大学工学部助手、2000年同教授、2004年兵庫県立大学大学院工学研究科教授、2013年兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科長、2021年兵庫県立大学法人理事、兵庫県立大学副学長、情報科学研究科教授、現在に至る。1985～1986年カリフォルニア大学パークレイ校客員研究員、1998～2003年同客員教授。2010年IEEE（米国電気電子学会）Fellow、現在、医療・健康システムの研究に従事。Biomedical Wellness Award from SPIE Defense, Security, and Sensing, Franklin V. Taylor Best Paper Award from IEEE SMC 等13の国際賞、兵庫県科学賞、井植文化賞等を受賞。

第2日（10月18日）講師略歴

パネルディスカッション

コーディネーター

宮本太郎（みやもと たろう）

中央大学法学部教授

1958年東京都に生まれる。中央大学法学部教授。北海道大学名誉教授。福祉政治論専攻。中央大学大学院法学研究科修了。立命館大学教授、北海道大学教授などを経て2013年より現職。内閣府参与、総務省顧問、男女共同参画会議議員、社会保障改革国民会議委員など歴任、現在、地域共生社会のあり方検討会議（厚生労働省）座長、東京都税制調査会委員、『月刊福祉』編集委員長など。単著に『貧困・介護・育児の政治 ベーシックアセットの福祉国家へ』（朝日選書）、『共生保障 「支え合い」の戦略』（岩波新書）、『生活保障 排除しない社会へ』（岩波新書）、『福祉国家という戦略 スウェーデンモデルの政治経済学』（法律文化社）、『福祉政治 日本の生活保障とデモクラシー』（有斐閣）など。

パネリスト

三木崇弘（みき たかひろ）

高岡病院児童精神科医

兵庫県姫路市出身。愛媛大学医学部卒業、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了（医学博士）、早稲田大学大学院経営管理研究科修士課程修了（経営管理学修士）。小児科後期研修ののち国立成育医療研究センターこころの診療部で児童精神科医として勤務。2019年4月よりクリニック、公立学校スクールカウンセラー、児童相談所、児童養護施設、保健所など医療・教育・福祉・行政の各分野で臨床活動。2022年7月より地元でUターンし、勤務医をしながら地域の子育て支援のため活動中。週刊モーニング／テレビ朝日「リエゾン－こどものこころ診療所－」監修。著書『リエゾン－こどものこころ診療所－ 凸凹のためのおとなのこころがまえ』。

パネリスト

奥村圭子（おくむら けいこ）

NPO法人日本栄養パトネット理事長

愛知県知多郡在住。三重大学大学院医学系研究科（地域医療学専攻）博士課程単位取得退学、博士（医学）。過疎地域在住者や社会的要配慮者の栄養障がい予防を目的とした地域栄養ケアプログラム「栄養パトロール」を開発。そして、愛知県日進市と常滑市・和歌山県紀美野町等で保健事業と介護予防の一体的取組みや山梨県山梨市で重層的支援体制整備事業、気仙沼市復興公営住宅や能登半島被災地支援などボランティア活動で活用している。

パネリスト

今井 敦（いまい あつし）

長野県茅野市長

1961年生まれ。長野県茅野市で育つ。駒澤大学経済学部卒業。2003年から茅野市議会議員を1期、2007年からは長野県議会議員を3期務める。2019年に茅野市長に初当選し、現在2期目。少子・高齢化や人口減少が進展する中、2020年に第2次地域創生総合戦略で「若者に選ばれるまち」を目指す宣言。2022年の「デジタル田園健康特区」（内閣府）の指定を契機に、市内外の民間事業者などと連携しながら、保険・医療・福祉を中心としたさまざまな分野の地域課題の解決に向け、デジタル技術を活用した取組みを進めている。

パネリスト

南出賢一（みなみで けんいち）

大阪府泉大津市長

1979年大阪府泉大津市生まれ。2002年関西学院大学商学部卒業後、民間企業での勤務を経て2007年泉大津市議会議員に当選（3期）。2017年に泉大津市長に就任し、現在2期目。泉大津から日本の共通課題の解決と社会をよりよくするための先導的なモデルの創出に「官民連携・市民共創」で取り組んでいる。健康の分野では2023年に未病予防対策先進都市をめざして「泉大津市健康づくり推進条例」を制定し、市民が主体的に自分にあった健康づくりに取り組むことができる環境の整備を推進している。

第 86 回全国都市問題会議日程

第 1 日 令和 6 年 10 月 17 日(木)

9:30	開会式			
	1. 開会挨拶	全国市長会会長	広島県広島市長	松 井 一 實
	2. 開会市市長挨拶		兵庫県姫路市長	清 元 秀 泰
	3. 来賓祝辞			
9:50	基調講演			
		生物学者、青山学院大学教授	福岡 伸 一	
11:00	主報告			
		兵庫県姫路市長	清 元 秀 泰	
12:00	(昼 食)			
13:10	一般報告			
		筑波大学システム情報系教授	谷 口 守	
14:10	(休 憩)			
14:30	一般報告			
		千葉県流山市長	井 崎 義 治	
15:30	一般報告			
		兵庫県立大学副学長	畑 豊	
16:30	(終 了)			

第 2 日 令和 6 年 10 月 18 日(金)

9:30	パネルディスカッション			
	[コーディネーター]			
		中央大学法学部教授	宮 本 太 郎	
	[パネリスト]			
		高岡病院児童精神科医	三 木 崇 弘	
		NPO 法人日本栄養パトネット理事長	奥 村 圭 子	
		長野県茅野市長	今 井 敦	
		大阪府泉大津市長	南 出 賢 一	
11:50	閉会式			
	1. 次期開催市市長挨拶	栃木県宇都宮市長	佐 藤 栄 一	
	2. 閉会挨拶 (公財)後藤・安田記念東京都市研究所理事長		小早川 光 郎	
	視 察【事前申込者のみ(有料)】			

参
考

報 告 書

令和 6年 10月 23日

真庭市議会議員 小田 康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 森 脇 正 和



下記のとおり政務活動費を使用して研修会をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 6年10月17日(午前) 9時30分 至 6年10月18日(午前) 12時00分
2	場 所	兵庫県姫路市神屋町143-2 アクリエひめじ(姫路市文化コンベンションセンター)
3	用 件	第86回全国都市問題会議 テーマ:健康づくりとまちづくり ～市民の一生に寄り添う都市政策～



4 概 要

開会式の後、生物学者、青山学院大学教授福岡伸一氏により生命を捉えなおす一動的平衡の視点から一と題して基調講演。生物は、常に古い壊れたところは排泄して新しいものに取り換えている。この営みは、まちづくりにも当てはまる部分があるので考えていくことが大切である。次に清元秀泰姫路市長により主報告。姫路市の健康づくりとまちづくりにおいて市内約470か所でいきいき100歳体操を開催、市内各地域における高齢者が自由に参加可能な通いの場の支援を行っていること。まちづくりにおいては、ウォーカブルなまちづくり、一万歩を楽しく歩けるまちづくりをしていると報告。次に谷口守筑波大学システム情報系教授により生き物から学ぶ健康なまちづくりと題し一般報告。都市は生き物と同様に成長し新陳代謝し怪我もする。健康な市民が多い自治体は活力ある自治体であるといえると報告。次に井崎義治千葉県流山市長により都市そのものを健康にするまちづくりと題し報告。流山市がつくばエクスプレス沿線区画整理事業で都心から一番近い森のまちで定住人口、交流人口の増加策を目指した経緯を紹介。それには、マーケティング戦略が非常に重要であると報告。次に畑豊兵庫県立大学副学長によりIT・AIの健康分野への適用例と題し兵庫県の特定検診の結果を分析評価を行っていることを報告、初日の報告を終了した。

2日目、宮本太郎中央大学法学部教授をコーディネーターに三木崇弘高岡病院児童精神科医、奥村圭子NPO法人日本栄養パトネット理事長、今井敦長野県茅野市長、南出賢一大阪府泉大津市長をパネリストに健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～と題しパネルディスカッションが行われた。その中で行政のパフォーマンス次第で市民の健康意識が変わる。子どもとは、未来の大人、未来に貢献する人、子どもが健全に育つことがその自治体の発展につながる。教育と福祉の一元化した子ども支援が必要であることなどが話あわれた。

第86回 全国都市問題会議

健康づくりとまちづくり ～市民の一生に寄り添う都市政策～

〔主催〕

全国市長会

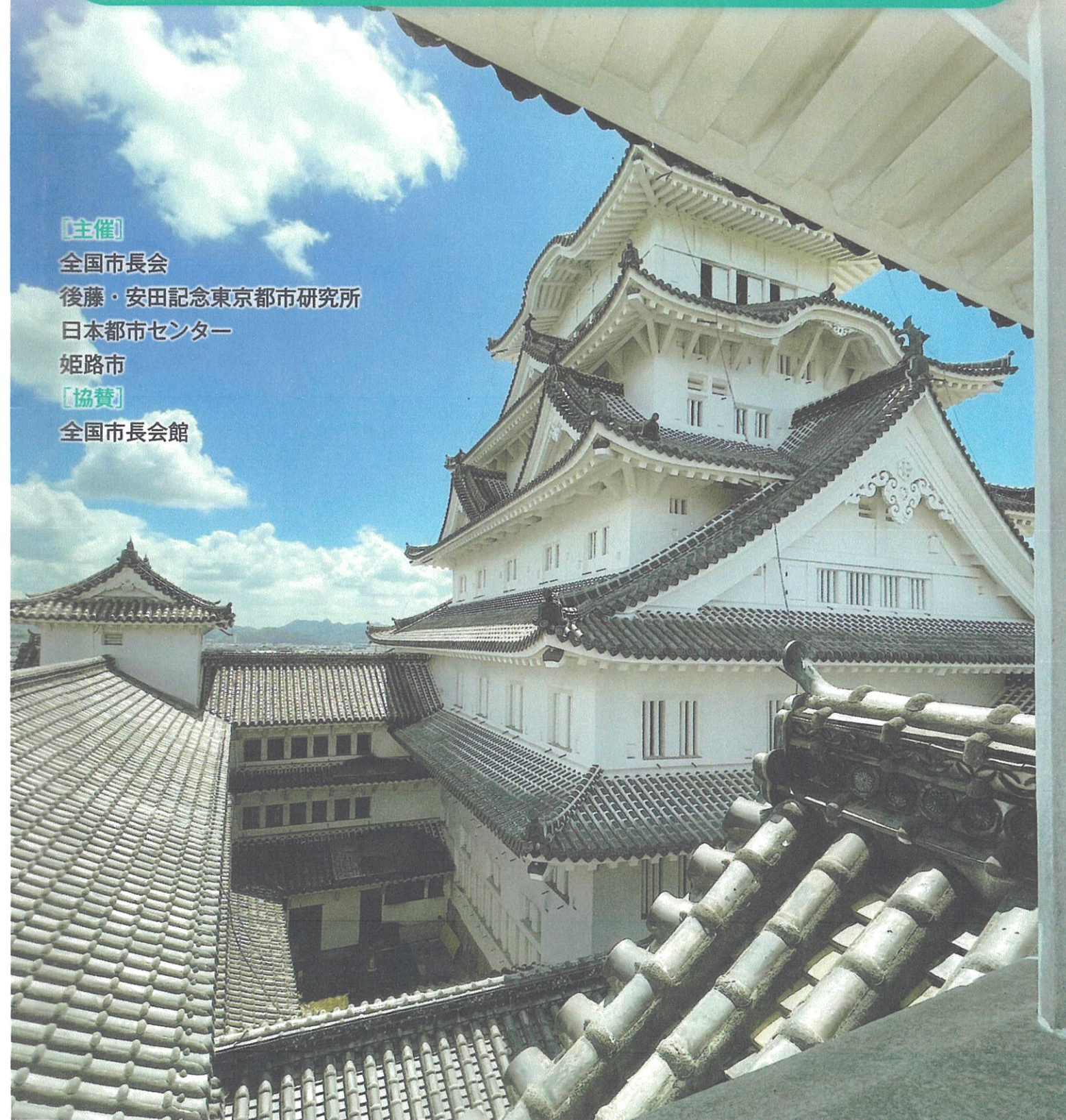
後藤・安田記念東京都市研究所

日本都市センター

姫路市

〔協賛〕

全国市長会館





第86回 全国都市問題会議

健康づくりとまちづくり ～市民の一生に寄り添う都市政策～

第86回 全国都市問題会議

第86回 全国都市問題会議

健康づくりとまちづくり
～市民の一生に寄り添う都市政策～

以上をもちまして、第86回全国都市問題会議開会式を終了いたします。男女の皆様、ありがとうございました。どうぞご相談ください。

第86回 全国都市問題会議

第86回 全国都市問題会議

パネルディスカッション

【コーディネーター】
中央大学法学部 教授 宮本 太郎 氏

【パネリスト】
高岡病院児童精神科医 三木 崇弘 氏
NPO法人日本栄養・食ネット理事長 奥村 圭子 氏
茅野市長 今井 敦 氏
泉大津市長 南出 賢一 氏

ただいまより開



報 告 書

令和6年10月23日

真庭市議会議長 小田康文 様

報告者 真庭市議会議員 氏名 西田文子



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会→要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 令和6年10月17日（午前・午後）9時30分 至 令和6年10月18日（午前・午後）12時00分
2 場 所	兵庫県姫路市神屋町143-2 アクリエひめじ
3 用 件	第86回全国都市問題会議 基調講演 生物学者/青山学院大学教授 福岡伸一氏 主報告 姫路市長 清元秀泰氏 一般報告 筑波大学教授谷口氏、流山市長井崎氏 兵庫県立大学副学長畑氏 パネルディスカッション「健康づくりによるまちづくり」
4 概 要	アクリエひめじの緞帳はファッションデザイナー高田賢三の最後の遺作で、ずっと大切にしていきたいと開会のあいさつで姫路市長が話された。姫路には大切に守られている本物がある。400年前の姫路城の維持は人づくりのため。服部副知事が紹介されると、会場がざわついた。副知事も思わず、ざわついていますね！と挨拶。後は流した。 基調講演で、生物学者の福岡教授が動的平衡という聞いたこともない単語



報告書（継紙）

の話をした。生き物は創ることよりも壊すことが優先。生命は流れた。分解と合成の絶え間ない均衡、それが動的平衡。常に壊されているのならどうして私でいられるのか？ジグソーパズルのピースの一つが壊れても周りのピースが記憶を新しく創られたピースを取り囲んでいるため過去の記憶を残している。生命現象ではあらゆるものが壊されることを予定して創られている。死がなければ繁栄もない。死は最大の利他的行為である。大阪万博に福岡教授のパビリオンがあると聞いて、黒いハットに蝶ネクタイ、幼少期には蝶々に夢中なオタク、今も友達は少ないと言われる方が人類の未来に貢献する研究者なのだと驚いた。生命は壊すことが優先されているから、いずれ死ぬ。私の体も常に細胞が壊されそれが優先されるから、老化していく。死ぬことは怖くない、新たな生命を創られていくのだから。そう聞くとすべての人が次の地球を創っているのだと分かり、なんだか未来が頼もしく思えた。

主報告で、姫路市長が姫路は心の距離が遠いところ、来てみると意外に近い。徳川家康の孫、千姫が嫁いだことによって、壁を白く塗り白鷺城と呼ばれるようになった。池田輝政が姫路城を建てたのではなく立派な宮大工が建てたと会場を笑わせた。観光客のためのまちづくりもあるが、住民が楽しむ街にしたい。どこに住む人が健康か、楽しく1日1万歩歩く人が健康になる。認知症にならないためにも、ぶらぶら歩きもいい。人は探索をしているときに喜びを感じる。そのために都市空間づくりをする。姫路は駅から城まで900m。往復すると7から8000歩。途中のカフェの前に“みちしば”をつくり、休憩。もともと医師であったことから、さまざまな健康に対する取組も紹介された。市長に姫路城をぜひ見て帰ってと言われ、行った。市民の方に楽しい市長ですねと聞くと、お酒が入るとますますダジャレばかりと、市民に愛されている。

谷口教授は、都市計画は固くて四角い、コミュニティーは丸くて柔らかい。活動するための状態を維持しようと丈夫なものを作る。都市は進化する。人が多くなるとタワマンを作る。50年後空き家になる。ドイツでは公共事業でタワマンを壊し少し贅沢な作りのマンションを建てる。赤字になるため行政がやる。部屋数を少なくして空き家のない街にしていく。お金設けではなく、

幸福度を上げる。歩く習慣のある健康な市民のために、良い歩きを誘発する都市づくりをする。公共交通のある街では歩く。健康を保つには1日8000歩。地方では自動車が無いと行動できない。自動車だと歩かない。自動車が入ってこない街にしないと行動変容は出来ない。コンパクトシティが専門の教授は、良い都市づくりは歩く習慣のある健康な市民のためにという話。そうだけれど地方に自動車が無ければ生活はできない。

流山市長井崎氏、市長に就任し2大危機を感じた。急激な少子高齢化と筑波エクスプレス沿線の区画整理事業。保育園落ちた日本死ね、の流山市。あれから駅前保育園をつくり、バス送迎を職員が提案。不動産屋のごとく1年に2桁の保育園を開設した年もある職員の頑張りを報告。緑の多い市だが、チカン、不法投棄と危ない緑、使えない緑と言われた。それを楽しむ、親しむ緑にしようと呼んでいる。都心から一番近い森の街をキャッチフレーズに。メインターゲットを子育て世代に決め、流入する街にを目標。大きくたたかれば大きな力が発揮される。頑張る職員に市長は感謝している。

畑副学長、誤嚥予防に歌ったり、のどをひきしめたり。声を出すことは、健康につながる。友達は大切。

パネルディスカッション、健康づくりによるまちづくり、健康政策は自治体が担っている。病気の人を掘り出していくことは健康になっていないとコーディネーターの中央大学法学部宮本太郎教授の前振りから始まり、心理社会面から見た子どもの健康について児童精神科医三木崇弘氏は環境が悪い。子どもが元気になるまちづくりのため、行政の部門間の連携で一括にすべてができるように。NPO法人日本栄養パトネット理事長奥村圭子氏、栄養パトロールで低栄養予防。医療や介護にかかっていない人を行政は元気だと思っている。実は高齢になるほど食べることに困っている。茅野市長今井敦氏、古くは地域には助け合う結（ゆい）の精神があった。高齢化と人口減少で担い手が不足、デジタルでまちの力は未来型「ゆい」を創造すること。人の健康と社会インフラの健康とそのデータが安全であるデータの健康を揚げデジタル田園健康特区を実現。

泉大津市南出賢一市長、自身が学生時代ボクシングの減量のため自炊をし、

食べるものを良いものを食べないと健康な体は出来ないという思いから、オーガニック食材を給食に取り入れたり、コロナウイルス感染症のワクチンについても、ワクチンの後遺症のある人や死亡した人の情報をきちんと調べて開示し自分で選択できるようにしている。未病予防対策先進都市をめざした取組で、健康状態の見える化、学びの場の充実、食育の推進、多様な選択肢の提供を推進している。

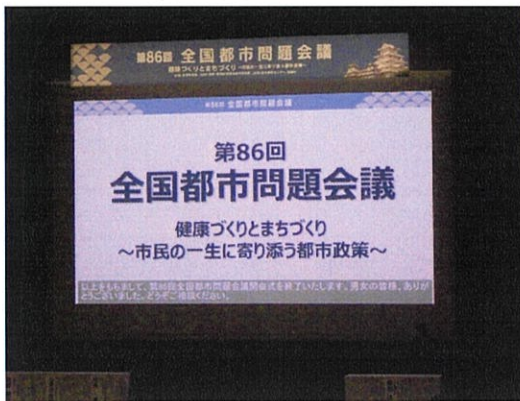
健康づくりとまつづくりは自治体がどう取り組むかで市民の一生に関わる重要な問題で課題だ。真庭市も人の流入だけでなく、まず市民の健康のために何が必要かみんなで考えることができるといい。



アクリエひめじ 綴帳



第86回全国都市問題会議 会場前



開会式 全国市長会会長 広島市長 松井一寛氏



主報告 姫路市長 清元秀泰氏



パネルディスカッション



閉会式



姫路のゆるキャラ